

令和2年度
学生募集要項

2020

大学院美術工芸研究科

博士後期課程

金沢美術工芸大学
KANAZAWA COLLEGE OF ART

金沢美術工芸大学大学院美術工芸研究科博士後期課程

1. 教育目的及び入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

金沢美術工芸大学大学院美術工芸研究科は、「地域の美術工芸の伝統を踏まえ、美術、工芸、デザインにわたり、造形芸術に関する高度な理論、技術及び応用を研究教授し、その深奥を究めて、文化の創造、進展に寄与することを目的」としています（大学院学則第1条）。

博士後期課程では、芸術に関する高度な創造及び表現の技術と理論を研究教授し、地域の美術工芸の深奥を究め、これを総合的に発展創造させ、自立して創作及び研究活動を行うために必要な高度な能力を備えた美術家及び研究者を養成します。

このことから、大学院美術工芸研究科博士後期課程では、美術工芸専攻のそれぞれの研究領域・研究分野にふさわしい資質と研究能力を審査するため、各研究分野ごとに小論文（芸術学以外）、論文又は作品、語学、口述により試験を行います。美術工芸専攻では次のような学生を求めています。

- 志願する研究領域・分野についての知見を有し、言語化する能力を備えている人
- 自立して創作、研究活動を行うための表現技術、知識を備えている人
- 地域及び国際社会における美術工芸の発展に寄与しようとする意欲を備えている人
- 外国語によるコミュニケーション能力を備えている人

2. 教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

博士後期課程の教育課程には、コースワークとして全領域必修科目である「地域美術演習」、「造形総合研究」及び各領域の選択科目の「研究制作」又は「研究演習」が置かれ、各領域・分野等における総合的、専門的な研究を行っています。さらに、リサーチワークとして全学年必修である「研究領域研究指導」において理論面から論文作成指導を行います。自立して高度な創作・研究活動を可能にするための指導を『研究指導計画書』に基づき実技と理論の両面から受けるほか、1・2年次生は年に2回、研究成果を発表する共同発表会を学生の自律的な運営により開催し、3年次生は論文等審査期間中に、実技系においては研究作品展示を、理論系においては口頭による研究発表を行います。

3. 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

金沢美術工芸大学大学院美術工芸研究科は、大学院学則第1条において、「地域の美術工芸の伝統を踏まえ、美術、工芸、デザインにわたり、造形芸術に関する高度な理論、技術及び応用を研究教授し、その深奥を究めて、文化の創造、進展に寄与することを目的」としています。

博士後期課程では、大学院学則第2条第4項で定められた目的、「芸術に関する高度な創造及び表現の技術と理論を研究教授し、地域の美術工芸の深奥を究め、これを総合的に発展創造させ、自立して創作及び研究活動を行うために必要な高度の能力を備えた美術家及び研究者を養成することを目的とする」に則って、次の3つの成果を達成し、所定の単位数を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、博士論文及び必要に応じて研究作品を提出して、委員会の審査及び試験に合格した者に、博士後期課程の修了を認定し、博士（芸術）の学位を授与します。

1. 美術工芸における各研究領域・分野において、高度な学識を有し、理論の確立を成し遂げている。
2. 高度専門職業人として、自立して創作・研究活動を行うための技能や社会性を身につけており、かつ独創的な活動が継続的に行える。
3. 美術家・研究者として地域社会、国際社会の文化の創造・進展に寄与できる。

令和2年度 金沢美術工芸大学大学院 美術工芸研究科（博士後期課程）学生募集要項

1. 募 集 人 員

美術工芸研究科 博士後期課程

標準修業年限 3年

専 攻	研 究 領 域	研 究 分 野 等	募 集 人 員
美術工芸専攻	美 術	日本画 油 画（版画、壁画、絵画技法材料を含む） 彫 刻	7 名
	工 芸	陶 磁 漆 芸 金 工 染 織	
	環境造形デザイン	環境デザイン ヴィジュアルデザイン プロダクトデザイン	
	芸 術 学	美 学 工芸史 日本・東洋美術史 西洋美術史	

（注）出願は、一つの研究領域に限る。

2. 出 願 資 格

- （1）修士の学位又は専門職学位を有する者及び令和2年3月までに授与される見込みの者
 - （2）外国において、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び令和2年3月までに授与される見込みの者
 - （3）外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び令和2年3月までに授与される見込みの者
 - （4）我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設で、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び令和2年3月までに授与される見込みの者
 - （5）国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者及び令和2年3月までに授与される見込みの者
 - （6）外国の大学において教育課程を履修し、博士論文研究基礎力審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
 - （7）文部科学大臣の指定した者
 - （8）大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、令和2年3月31日までに24歳に達する者
- ※ 出願資格（8）により出願を希望する者は、個別に出願資格の審査を行うので、令和元年10月11日（金）までに本学事務局へ必ず照会し、必要書類を令和元年10月21日（月）までに本学事務局に提出してください。

3. 出 願 受 付 期 間

令和元年12月2日（月）～12月9日（月）

4. 出 願 書 類 等

- (1) 入学願書・受験票（本募集要項に綴込んである用紙を使用してください。）
写真欄に3ヵ月以内に撮影した無帽上半身のものを貼付してください。
- (2) 研究計画書（本募集要項に綴込んである用紙を使用してください。）
- (3) 出願資格を証明する書類及び成績証明書等
 - ① 大学院修士（専門職学位）課程における成績証明書（それぞれの大学の様式による。）
 - ② 大学院修士（専門職学位）課程修了（又は修了見込）証明書
- (4) 入学考査料：30,000円
（但し、令和2年3月本学大学院修士課程修了見込みの者は、納入の必要はありません。）
 - ① 入学考査料は、本募集要項に綴込んである「振込依頼書」により必ず金融機関（ゆうちょ銀行は除く）の窓口から振込してください。依頼人の欄は、志願者本人の氏名を記入してください。
 - ② 振込後の「振込証明書」の原本を提出してください。
- (5) 返信用封筒（出願書類等を直接持参する者は不要）
定形封筒（長形3号）に志願者の郵便番号、住所、氏名を記入し、364円分の切手（速達料金分）を貼付してください。（外国に返信希望の者は、所定の国際返信切手を同封してください。）
- (6) 「旅券の写し^{*1}」及び「日本語能力試験N2（又は2級）以上認定結果及び成績に関する証明書（原本）」（日本国際教育支援協会主催）
外国人出願者は、「旅券の写し」及び「日本語能力試験N2（又は2級）以上認定結果及び成績に関する証明書（原本）」を提出してください。（日本語能力試験N2（又は2級）以上未認定者は、必ず令和元年度日本語能力試験N2以上を受験し、結果通知書を提出してください。^{*2} 詳しくは令和元年8月23日(金)までに本学事務局までお問い合わせください。）
※1 入学試験を受ける目的で、日本に入国するためには、自国の日本公館でビザ（査証）を申請することになりますが、必ず入国目的を「受験」のためとして、手続を行ってください。
「短期滞在査証」が発給されます。
※2 結果通知書の総合点が合格基準に達していない場合は出願を取り下げさせていただきます。
 - 本学修士課程修了者又は修了見込みの者は、上記の書類のうち(3)の提出は不要です。
 - 提出書類が外国語の場合は、日本語の訳を必ず添付してください。（様式任意A4判、英語の場合は本人翻訳可。それ以外の言語の場合は大使館等公的機関の証明を受けた翻訳文とする。）
 - 疾病などにより、入学試験や入学後の授業で特別な配慮を希望する者は、医師・校医等の作成した診断書を提出してください。
 - 入学後も、官公署、学校その他会社等に在職する者は、所属長の受験許可書（様式任意A4判）を添付してください。

5. 出願提出方法

- 出願書類及び入学考査料の振込証明書を直接持参又は郵送により提出してください。
- 直接持参する場合の受付時間は、平日のみ9時～16時（土、日曜は受付けません。）です。
- 郵送する場合は、書留速達によるものとし、出願受付期間内の局消印を有効とします。また、封筒の表に「博士後期課程入学願書在中」と朱書きし、入学考査料の振込証明書を同封してください。
- 送 り 先 〒920-8656 金沢市小立野5丁目11番1号 金沢美術工芸大学事務局
- 問合せ先 TEL (076) 262-3531

6. 受 験 票

上記の出願手続きを行った者のうち、審査のうえ本学大学院が受験資格を有すると認定した者には、受験票を送付します。受験票が令和2年1月6日(月)までに到着しない場合には、1月8日(水)正午までに本学事務局へ連絡してください。

7. 試 験 場 所

石川県金沢市小立野5丁目11番1号

金 沢 美 術 工 芸 大 学

8. 試験日程及び試験内容

(1) 作品及び論文の提出

① 提出する作品及び小論文又は論文の内容、規格等は以下のとおりです。

研究分野等	小 論 文 ・ 論 文		作 品	
	日 時	内容、規格等	日 時	内容、規格等
日 本 画	令和2年 1月6日(月) ～9日(木) 9:00～16:00	(1) 次の二つの小論文を課す。 ①志願する研究分野の現状について歴史的観点をもとに批判する。 ②提出作品の制作意図を制作過程に沿って論述する。 ③、④共に400字詰め原稿用紙5枚（ワープロ文書の場合は2,000字）程度。図・表は別。字数を明記 (2) 提出作品の写真（キャビネ程度） (3) 研究計画書（写） ・(1)～(3)を1冊のファイルに綴じたものを8部提出すること。 ・提出した小論文・写真は返却しない。 ・受験番号、研究領域、研究分野等を記載すること。	令和2年 1月24日(金) 9:00～16:00	絵画作品50号以上2点、100号以上3点 (2年以内に制作したものに限る。)
油 画 (版画、壁画、 絵画技法材料を含む)				作品5～7点(227cm×182cm以内、立体の場合は奥行き227cmまでとする。) (2年以内に制作したものに限る。)
彫 刻				彫刻作品3～5点 (2年以内に制作したものに限る。) 提出予定作品のサイズ、材質を記したリスト(様式自由)をあらかじめ願書に添付しておくこと。
陶 磁 漆 芸 金 工 染 織			1月27日(月) 9:00～10:00	志望分野の作品5～7点 (2年以内に制作したものに限る。)
環境デザイン ヴィジュアル デ ザ イ ン プロダクト デ ザ イ ン				作品3～5点 (論文を含めることができる。) (2年以内に制作したものに限る。)
美 学 工 芸 史 日本・東洋 美 術 史 西洋美術史				

② 作品及び論文の提出に当たっては、所定の「提出作品・論文等添付用紙」を作品又は論文等に貼り付け、指定された場所に提出してください。（不足分はコピーして使用すること。）証明欄に指導教員の証明を得ることができない場合は、本人の能力を知る、第三者の証明を得てください。なお、「提出作品・論文等添付用紙」に記載不備がある場合は、作品又は論文等を受理しません。

③ 作品の提出及び引き取りは、必ず本人が行い、作品の返却は、1月28日(火)、1月29日(水)の口述試験終了後とします。

作品は、前述の指定日時以外は受け付けません。やむを得ず本人が作品の提出及び引き取りを行えない場合は、必ず事前に本学事務局へ連絡してください。引き取りのない作品の保管については、責任を持ちません。

④ 論文の提出は、平日のみ9時から16時までとします。論文を郵送又は運送する場合は、出願受付期間内の局消印又は業者伝票により有効とします。

論文の記述は、日本語以外に英語、フランス語、ドイツ語を認めます。その場合には、800字程度で日本語の要約を添付してください。

⑤ 社会人の場合は、上記の論文に加えて社会経験と志望研究の関連を記述した文章（字数自由）を添付することができます。

(2) 試験日程及び試験内容等

研究領域	日 時	試 験 の 内 容
美術 工芸	令和2年 1月27日(月) 10:30～12:00	(1) 語学試験 英語、フランス語、ドイツ語の中から1科目選択 ※本学が用意した辞書の使用可
環境造形 デザイン	令和2年 1月28日(火)・29日(水) 10:00～	(2) 口述試験（指定する日時に行う。） ※実技試験を課すこともある。
芸 術 学	令和2年 1月27日(月) 10:30～12:00	(1) 語学試験 英語、フランス語、ドイツ語、古文・漢文の中から1科目選択
	令和2年 1月28日(火)・29日(水) 10:00～	(2) 口述試験（指定する日時に行う。）

※試験室については、学内に掲示します。集合時刻は試験開始20分前とします。

日本語を母国語としない者は、学位申請予備審査までに、「日本語能力試験N1（又は1級）」（日本国際教育支援協会主催）を取得するか、これと同等の日本語能力を有していることを、本学が指定するその他の日本語試験を通して証明する必要があります。ただし、学位申請を行う意志のない方はこのかぎりではありません。

9. 配 点

研 究 領 域	内 訳				合 計
	提出作品	語学試験	口述試験	小 論 文	
美 術	150	50	50	50	300
工 芸	150	50	50	50	300
環境造形デザイン	150	50	50	50	300

研 究 領 域	内 訳				合 計
	提出論文	語学試験	口述試験		
芸 術 学	200	50	50		300

10. 選 抜 方 法

入学者の選抜は、試験（提出作品及び小論文〈芸術学領域にあっては提出論文〉、語学、口述）及び成績証明書等を総合して判定します。

11. 合 格 発 表

令和2年1月31日(金) 午前10時

- 合格者の受験番号を学内に掲示するとともに、合格発表日の午前11時（予定）から本学ホームページに掲載します。また、合格者あて合格通知書及び入学手続きに関する通知を郵送します。（可否の問い合わせには、一切応じません。）

URL <https://www.kanazawa-bidai.ac.jp/>

12. 入 学 手 続 期 間

令和2年2月3日(月)～2月7日(金)まで 9:00～16:00

- 入学手続場所 本学事務局
- 期間内に入学手続を完了しない場合は、入学を辞退したものとして扱います。

13. 入 学 金 ・ 授 業 料

- (1) 入学金 金沢市内居住者、本学学部卒業者及び本学修士課程修了生 282,000円
上記以外の者 423,000円

※ 「市内居住者」とは、次のいずれかに該当する者をいいます。

- ① 入学の日の1年以前から引き続き金沢市内に住所を有する者
- ② 入学の日の1年以前から引き続き金沢市内に住所を有する配偶者又は1親等の親族のある者

※ 入学手続時に納入することとします。ただし、令和2年3月本学大学院修士課程修了見込みの方は、納入する必要はありません。

- (2) 授業料 年額 535,800円（前期・後期に分割し、4月及び10月の末日までに納入）

14. その他の納入金

成美会会費（後援会費） 45,000円（入学時に1回限り納入）

- ※ 入学金等は、改定される場合があります。
- ※ 在学中に授業料が改定された場合には、改定時から新授業料が適用されます。
- ※ 願書受理後は、いかなる理由があっても書類の変更及び入学考査料の返還は受けません。
また、納入した入学金等も返還しません。

15. 個人情報の取扱い

独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律（以下「個人情報保護法」という。）に基づき、本学が入学者選抜を通じて取得した個人情報の利用については、次のとおりです。

(1) 利用目的について

- ①入学手続に係わる業務
- ②入学後の学籍管理等の修学に係わる業務及び健康診断等の保健管理に係わる業務
- ③入学金及び授業料徴収等の納付金管理に係わる業務
- ④1年次における入学金免除及び授業料免除並びに奨学生選考等の修学支援に係わる業務
- ⑤個人が特定できない形で統計処理等の付随する業務及び入学案内業務並びに本学における入学者選抜に関する調査研究

(2) 第三者への個人情報の提供について

本学が取得した個人情報は、個人情報保護法第9条に規定されている場合を除き、出願者本人の同意を得ることなく他の目的で利用し、又は第三者に提供することはありません。ただし、次の場合必要最低限の情報を提供することがあります。

- ①上記(1). ①～⑤の個人情報を取扱う業務を、個人情報の適切な取扱いに関する契約を締結したうえで、外部の事業者へ委託する場合
- ②本人の利益となる次の学外関係者に情報提供する場合
 - 1) 同窓会
 - 2) 成美会

指 導 教 員

研究領域	研究分野等	担 当 教 員	主 な 研 究 内 容	主指導	副指導
美術	日 本 画	松崎 十朗 教 授	日本画制作における金属箔・泥等の素材研究及び水・光・時間を主なテーマとする絵画表現研究	○	
		佐藤 俊介 教 授	「徹底した写生」「日本画と情報機器の発展的関係」を軸にした、時代に対する強度及び普遍性を有す日本画制作研究	○	
		荒木 恵信 准教授	自身の主題にそった日本画制作研究、文化財の保存修復に関する研究、絵画材料や技術・図様など絵画表現の分析及び模写研究	○	
		よしだぎょうこ 准教授	専門指導領域として、日本を含む東アジア独自の美術概念をベースにした、即戦力のある現代美術作品制作及び論考・展示表現		○
		石崎 誠和 准教授	実感を基盤とした日本画の制作研究と文化の混淆による新たな絵画制作原理の研究		○
	油 画	神谷 佳男 教 授	17世紀フランスの銅版画家アブラアム・ボスの銅版画技法書に関する研究及び版画創作	○	
		三浦 賢治 教 授	油彩画技法による絵画表現及び古典絵画技法・材料の研究	○	
		大森 啓 教 授	現代における絵画表現及び技法・材料の研究	○	
		鈴木 浩之 准教授	絵画及び映像表現作品制作研究	○	
		高橋 治希 准教授	絵画及び立体・空間表現作品制作研究	○	
	彫 刻	岩崎 純 准教授	ミクストメディアによる絵画表現及び壁画制作に関する技法・材料の研究		○
		中瀬 康志 教 授※	現代社会の多様な関係性の考察による表現（活動）、並びに多素材による平面・立体両方面からの彫刻的手法による表現の研究	○	
		石田 陽介 教 授	彫刻制作について具象、特に人体を中心とした塑造及び木彫の表現、並びに素材・技法の研究	○	
		土井 宏二 教 授	土を主な素材とした彫刻作品制作、並びに塑造全般に関する表現の研究	○	
		浜田 周 准教授	金属彫刻作品制作における金属加工技法、並びに金属素材の複合表現の研究		○
	工 芸	芝山 昌也 准教授	日本に根差した今日的な彫刻の制作と近現代日本彫刻の調査研究、並びに石材をはじめとした多様な素材・技法の研究	○	
		山本 健史 教 授	陶磁の表現及び理論の研究、ろくろ・型成形を応用した表現及び空間研究、有機物を利用した土のマチエール研究、釉着と釉彩の研究	○	
		池田 晶一 教 授	陶磁の表現及び理論の研究、陶磁におけるデジタル工作機器の活用、石膏型鋳込み等の反復生産技術の研究、公共空間の芸術表現研究	○	
		宮永 春香 講 師	陶磁の表現及び理論の研究、陶磁における美術表現及び空間表現の研究、粉体成形を主とした窯業技術転用研究、陶磁釉薬の研究		○
		田中 信行 教 授	主に乾漆技法による漆造形表現及び理論の研究、塗りの造形の研究、日本及びアジアにおける造形的特質の研究	○	
	漆 芸	山村 慎哉 教 授	漆の伝統技法から現代の技術を応用した幅広い制作方法の研究及び工芸における意匠と漆芸の可能性の実践	○	

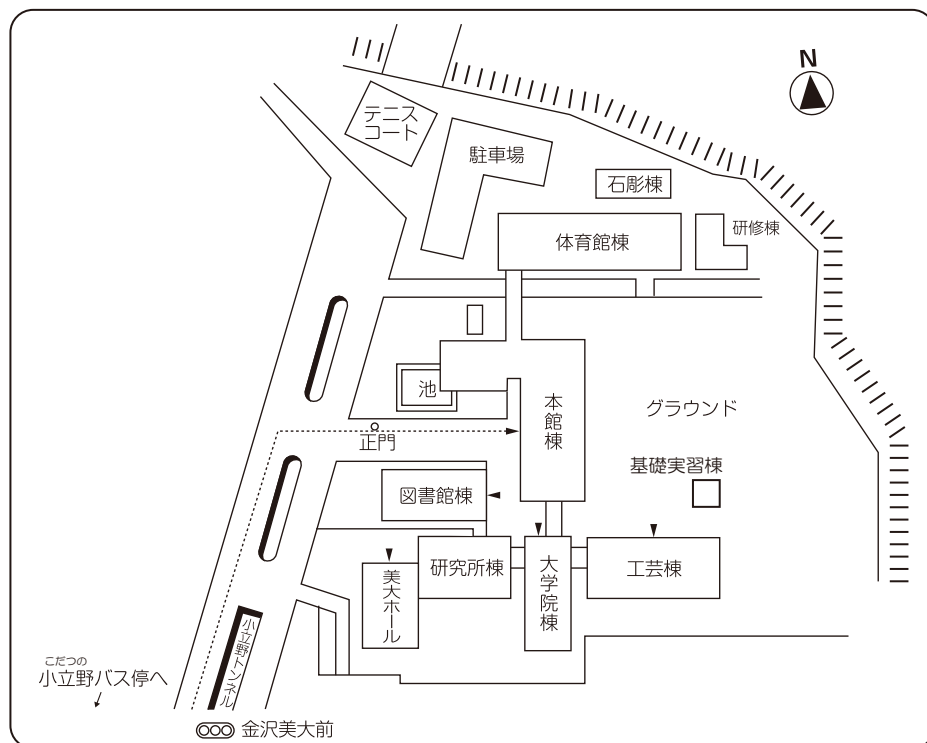
研究領域	研究分野等	担 当 教 員	主 な 研 究 内 容	主 指 導	副 指 導
工 芸	金 工	畠山 耕治 教 授※	鋳造造形表現における理論から制作への実践と空間における金属素材の多角的な可能性の研究	○	
		原 智 教 授	鍛金造形表現及び理論の研究、金属加工技術並びに金属着色技術全般の研究、伝統的表現技法と現代の工芸に対する研究	○	
	染 織	大高 亨 教 授	染織の表現及び理論の研究、織の組織及び紋織技法の制作研究、テキスタイルデザイン及びデジタルテキスタイルの制作研究	○	
		足立 真実 准教授	染織の表現及び理論の研究、各種織物技法の制作研究、天然染料による染色の研究		○
		加賀城 健 准教授	染織の表現と理論の研究、各種染色技法による制作研究、染色における美術表現及び空間表現の研究		○
環 境 造 形 デ ザ イ ン	環 境 デ ザ イ ン	角谷 修 教 授	文化施設の展示環境、商環境とサイン計画の空間デザイン領域に関する研究	○	
		鏑 隆弘 教 授	自然環境保全、都市景観のデザイン、公園や緑地などの屋外公共空間のデザイン、庭園デザイン、古い庭園の調査に関わる研究	○	
		畝野 裕司 教 授	パッケージデザインと商業空間に関する研究	○	
		北村 賢哉 准教授	くらし空間領域のプロダクトデザイン研究・連携と横断によるデザイン教育の研究		○
	ヴィジュアル デ ザ イ ン	工藤 俊之 教 授※	広告コミュニケーションとアートディレクションに関する研究	○	
		寺井 剛敏 教 授	ブランディング、環境グラフィック、プロモーション領域の研究	○	
		鈴木 康雄 教 授	写真・映像領域及び素材表現に関する研究	○	
		坂野 徹 准教授	インフォグラフィックス、印刷、本のデザインに関する研究		○
	プロダクト デ ザ イ ン	村中 稔 教 授	UXデザインプロセスを基盤としたプロダクトとインターフェイスデザイン開発及びコンセプト表現のためのイメージ制作の研究	○	
		浅野 隆 教 授	モビリティに関するデザイン研究	○	
		河崎 圭吾 教 授	家電製品のデザイン研究	○	
		安島 論 教 授	社会課題とデザインの関係、イノベーションメソッドに関する研究	○	
		根来 貴成 准教授	インテリア・オフィス・コントラクトにおける家具デザインの研究		○
	共 通	村山 祐子 准教授※	ファッションデザインを基軸としたライフスタイルのあり方に関する研究		○
芸 術 学	美 学	星野 太 講 師	崇高論を中心とする美学・芸術理論		○
	工 芸 史	菊池 裕子 教 授	脱植民するアジアの視覚物質文化史としてのアート・工芸・デザイン史・文化交流史	○	
	日本・東洋 美 術 史	水野 さや 准教授	日本・東洋美術史分野の研究	○	
	西洋美術史	保井 亜弓 教 授	近世北方美術及び版画史を中心とした西洋美術領域の研究	○	

論文研究指導	保井 亜弓 教授	菊池 裕子 教授	水野 さや 准教授	星野 太 講師
	青柳 りさ 教授	高橋 明彦 教授	桑村佐和子 教授	大谷 正幸 教授
	荷方 邦夫 准教授	渋谷 拓 准教授	稲垣 健志 准教授	

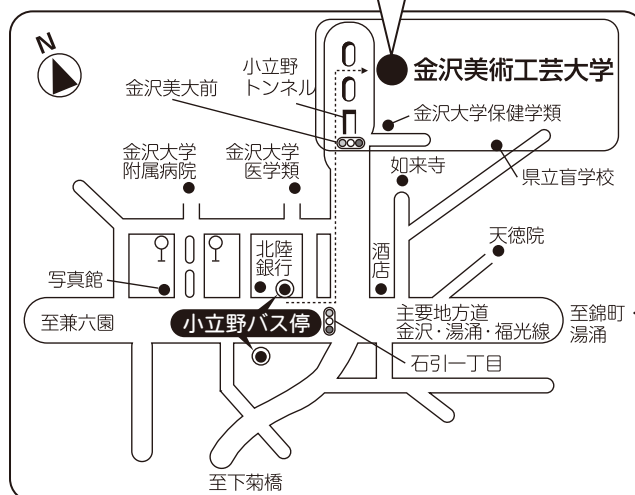
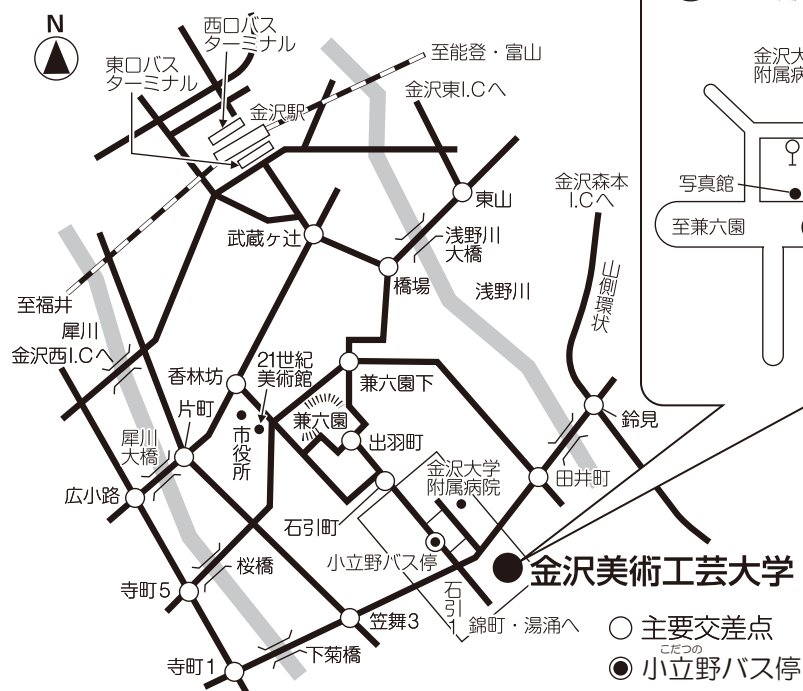
※中瀬 康志 教授（令和3年3月退職予定）
 ※村山 祐子 准教授（令和3年3月退職予定）
 ※畠山 耕治 教授（令和4年3月退職予定）

※工藤 俊之 教授（令和3年3月退職予定）
 ※青木 千絵 助教（令和3年3月退職予定）

●キャンパスレイアウト



●交通アクセス



大学への交通

- 電 車／金沢駅下車
- バ ス／金沢駅東口（兼六園口）バスターミナル 7番のりば
 - ①東部車庫行、①金沢学院大学行、
 - ②湯涌温泉行、②北陸大学薬学部行、②北陸大学太陽が丘行、
 - ⑥駒帰行（乗車約25分）
- 金沢駅東口（兼六園口）バスターミナル 6番のりば
 - ⑬湯谷原行、⑭田上住宅行（乗車約25分）
- 金沢駅西口（金沢港口）バスターミナル 5番のりば
 - ⑩東部車庫行、⑩金沢学院大学行、⑬湯谷原行（乗車約25分）
- いずれのバスも「小立野（こだつの）」で下車してください。（徒歩約8分）
- タクシー／金沢駅から約20分
- 自動車／北陸自動車道
 - 金沢森本ICから約15分
 - 金沢西ICから約25分
- 航空機／小松空港から
 - バス／リムジンバス（乗車約40分）
 - 金沢駅下車
 - （乗り換え、東口、西口から電車の場合に同じ）



金沢美術工芸大学

KANAZAWA COLLEGE OF ART

公立大学法人 金沢美術工芸大学

〒920-8656 石川県金沢市小立野5丁目11番1号
TEL 076-262-3531 FAX 076-262-6594

5-11-1 Kodatsuno Kanazawa Ishikawa
920-8656 Japan
TEL +81-76-262-3531 FAX +81-76-262-6594
<https://www.kanazawa-bidai.ac.jp>

